

杉並区議会議員 杉並わくわく会議代表

A portrait of a woman with short dark hair and glasses, wearing a dark blue collared shirt. A large, vibrant pink lily flower with green stamens is positioned to her left. The background is white.

阿佐ヶ谷
北口開発

区の計画図(左)では「森に囲まれた病院」と屋敷林がそのまま残るかのようですが、実際の計画は上図のL型のアミカケ部分、敷地の15%だけしか残りません。

土壌の入れ替えは税金で負担？

豊洲ではあとから新たな汚染がみつかり、さらに都が費用を負担することになりました。同様に杉一小が移転してから汚染がみつかったら大変です。それを防ぐためには土壌の全面入れ替えが必要ですが、その費用は7億円以上かかります。杉並区も東京都のように住民の税金で処理費用を負担する考えかもしれませんが、土壌汚染対策は原因者が負担するのが原則です。

阿佐ヶ谷に絶滅危惧種の「ツミ」が

区の自然環境調査ではツミ(タカ的一种)が生息していることが確認されました。東京都のレッドリストで「絶滅危惧1A類」即ち「ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの」とされています。屋敷林がなくなればツミは住むことができなくなります。

土地区画整理は公的な事業

けやき屋敷は私有地ですが、今回の開発計画は杉並区、河北総合病院とけやき屋敷所有者の三者で「土地区画整理事業」を行うもので公の性格をもちます。道路も緑地も三者の相談で作られます。

杉並区が屋敷林を残そうという意思を持ち、相応の負担をすれば残すことは十分可能なのです。

西荻窪にも再開発の波

西荻窪を南北に貫くバス通り「補助132号線」の拡幅が計画されています。立ち退きを迫られる方も多く、本当に必要な計画なの?と疑問の声が上がっています。また、西荻窪駅の南口は小さな飲み屋さんが軒を連ねる路地が魅力ですが、この商店街をつぶして大きなビルを建てる計画があることがわかりました。大規模開発で個性のないまちに変えないでほしいものです。



子ども

保育園民営化に反対しました (6月6日保健福祉委員会より)

民営化で一番懸念されるのは保育の質が下がるのではないかと点です。すでに民営化された保育園で朝夕のパートさんが削られ、子どもたちが室内遊びしかできなくなった、また用務の職員がいなくなり保育士の負担が大きくなったと聞きました。

区は区立同様の職員配置を求めていくといいます。現実にはこうしたことが起きているのです。

【反対意見】

私立の保育園、特に企業立の保育園では人件費比率がきわめて低い保育園が散見され、離職率が高いということが多く。そのことが直接に子どもの処遇、保育の質にひびいてしまいます。区立園のように定年まで安定して働けるという保証があって安定した保育もできるものと思います。

もともと44園あった区立園を区は27園まで減らしてしまう計画です。立ち止まって考え直していただきたい。区立園の存続を強く求めていく立場から民営化には反対します。

狭い!桃五学童クラブ (6月4日一般質問より)

4月から下井草学童クラブを移転・統合した桃五学童クラブでは、狭すぎて子どもたちが困っています。子どもたちは「とにかく狭い」「静かに遊べる部屋がない」「本が少ない」、保護者からは「隣に公園があって友達が遊んでいるのに、どうして自分はそこで遊べないのか、室内から外に出られないのか、とかわいそう」「学童つまらないから行きたくないといわれることもあり、親として苦しい」との声が聞かれます。

誰ひとり望んでいない下井草児童館の廃止。そのしわ寄せで子どもたちは狭い場所につめこまれ、十分に体を動かすこともできない日々となっています。

やはり児童館が必要です。

